

2026年
1月17日(土)



会場

北野文芸座

〒380-0845

長野県長野市
西後町1625

琉球芸能

北野文芸座公演

～伝統芸能で繋ぐ平和の心～

琉球舞踊

かぎやで風

組踊

はなうり
花売の縁

沖縄芝居

なちじんぬんどうんち
今帰仁神女殿内

沖縄戦と琉球芸能の歴史展も開催！

公演時には会場にて
沖縄戦や戦争を乗り越えて
きた琉球芸能の歴史等を
展示する予定です。

ホームページ



出演者情報



出演者や詳しい情報は
コチラから▲



戦後80周年平和祈念事業～伝統芸能で繋ぐ平和の心～



公益財団法人沖縄県文化芸術振興会

098-987-0926

80-kariyushi@okicul-pr.jp

長野県琉球芸能公演 演目紹介



艶やかな舞い

琉球舞踊

演目名：かぎやで風

ふう

沖縄では結婚披露宴や正月、芸能公演の幕開けなど、おめでたい席では、必ずのように演奏される演目です。人生最大の喜びを、花が開花する瞬間の情景になぞらえて表現します。

『今日のような嬉しい日は何に例えることができるだろうか！つぼみだった花が、朝露と出逢って咲き開くような気持ちだ！』という歌詞の内容をゆっくりと表現します。じわじわと沁みるように伝わることでしょう。

見どころ

色々な姿の舞がありますが、今回は老人・老女の姿で長寿や子孫繁栄を願う珍しく貴重な演舞です！

沖縄版オペラ

組踊

はなうり えん
演目名：花売の縁

首里の下級士族である主人公は、不幸が続き生活も苦しくなります。ついには、妻と幼子を残し、ひとりで遠くの地へと出稼ぎに出るのですが音信不通となります。

時が過ぎ、良家の乳母として働いている妻は、成長した子を連れ夫探しの旅に出ます。旅の途中で夫の消息を聞いた母子は、花を売って生活している夫と再開。主人公は、落ちぶれた姿を見られた恥ずかしさで隠れてしまいます。しかし、妻の説得により心を開き、夫婦、親子の再会を歓び、ともに首里へと戻るのでした。

見どころ



旅の途中出会う猿回しのシーンで、子役が演じるかわいい猿は必見です。

感動的な再会のシーン。ハンカチのご用意を忘れずに。

字幕があるのでしまくとうば（沖縄方言）がわからなくても楽しめます。





沖縄方言 の 大衆演劇

沖縄芝居

なちじんぬんどぅんち
演目名：今帰仁神女殿内

今帰仁村の神女殿内（祭祀を執り行う聖なる場所）の娘『カマドゥー』と下女『チラー』は、花にたとえられるほどの評判の美しさ。

村には毎年、王国の首都から若い役人が靈場巡拝に訪れます。今年はハンサムな役人が、お調子者の付人を連れて、村まで辿り着き、男女が出会い、惹かれ合います。

二組のカップルの恋の行方をおもしろおかしく描く物語です。

見どころ

二組のカップルが織りなす楽しい物語です。

字幕があるのでしまくとうば（沖縄方言）がわからなくても楽しめます。

出演者情報

琉球舞踊「かぎやで風」

佐辺良和

宮城茂雄

組踊「花売の縁」

森川の子：宮城茂雄

乙樽：廣山えりか

鶴松：廣山ひさき

猿引：金城真次

猿：金城楨人

薪木取：宇座仁一

沖縄芝居「今帰仁神女殿内」

若按司：佐辺良和

三良：玉城匠

カマドゥー：知念亞希

チラー：伊良波さゆき

神女アンマー：伊禮門綾

臣下：金城真次

地謡

歌三線：花城英樹

歌三線：玉城和樹

歌三線：大城貴幸

箏：林杏佳

笛：豊里美保

胡弓：親田鈴

太鼓：宮里和希

解説

富田めぐみ

琉球舞踊とは

組踊が完成するはるか以前から、琉球王朝の宮廷芸能として発展してきました。琉球古典舞踊には、老人夫婦の姿で踊る「老人踊」、少年の姿をした「若衆踊」、青年の凛々しさを表現した「二才踊」、艶やかな紅型衣装を羽織って踊る「女踊」と呼ばれる踊りの種類があります。

明治時代以降は民間にも広まり、伝統的な古典舞踊が受け継がれる一方で、庶民のくらしや感情を生き生きと表現した雑踊り、戦後に誕生した新しい創作舞踊が、琉球舞踊の新しいスタイルとして確立しました

組踊とは

琉球王朝時代の18世紀初めに、玉城朝薰（たまぐすくちょうくん）が今でいうプロデューサーとなって、中国の使者（冊封使）を歓待するため創作した歌舞劇が組踊です。

琉球の歴史や古くからの言い伝えをもとに、これまで多くの作品を編み出してきました。組踊は能楽や歌舞伎などと並ぶ国指定重要無形文化財であり、ユネスコの無形文化遺産にも登録された日本を代表する古典芸能です。

沖縄芝居とは

沖縄芝居が誕生したのは明治時代の中頃です。庶民の暮らしや悲恋を描き、セリフを歌で表現した「歌劇」と、時代劇を中心に、日常の方言に近いセリフで演じる「方言せりふ劇」の2種類があります。

現在も大衆演劇として多くの人に親しまれています。沖縄芝居は、沖縄の伝統と文化の宝庫です。泣いて笑ってその魅力を存分に味わってください。

